

栄原館長就任のごあいさつ

大阪歴史博物館館長 さかえ はら 栄原 とわ お 永遠男

本年4月以来、前館長脇田修のあとを受けて館長をつとめさせていただくことになりました。わたくしは、生れは東京ですが、幼い時から大阪で育ちましたので、大阪に愛着をいただいております。このたび縁あって、大阪の歴史と文化にかんする中心的な博物館である当館とかわる機会をいただき、その責任の大きさに、心を引き締めております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

これまでの「大阪歴友」や「事務局だより」などを拝見させていただきましたが、それによって「大阪歴史博物館友の会」が平成14年(2002)の発足以来、さまざまな活動を積極的に行っておられることを知りました。年数回の見学会や会誌の発行、年1回の総会や毎月の幹事会の開催その他です。特に今年度からは、自主企画による見学会を行なうなど、自主的な組織として活動を展開しておられることに敬意を表したいと思います。

当館は、これらの「友の会」の活動によって支えられている面が大きいと存じます。一方、当館は「友の会」と深い関係を持たせていただいております。見学会の講師として学芸員が参加することや、さまざまな企画の立案のお手伝い、その他です。

今後とも、この良好な関係をつづけて、いろいろと協力しあい、ともに成長していくことができばうれしく思います。「友の会」のさらなる発展を願ひまして、あいさつとさせていただきます。

栄原館長
プロフィール

昭和21年(1946)、東京生まれ、まもなく大阪に移る。昭和49年(1974)、京都大学大学院文学研究科を単位取得退学。昭和56年(1981)より、大阪市立大学文学部にて教鞭を執り、現在、同名誉教授。

専門は日本古代史で、主な著書に『日本の歴史4 天平の時代』(集英社)、『日本古代銭貨流通史の研究』(塙書房)、『万葉歌木簡を追う』(和泉書院)、『聖武天皇と紫香楽宮』(敬文舎)などがある。

新たなステップに向けて

大阪歴史博物館友の会副会長
(歴博副館長兼学芸課長) 伊藤 廣之

友の会では、平成23年度から自主運営に向けて事務局体制のあり方などを検討し、25年度からはその移行準備を進めてきましたが、いよいよ今年度からは自主運営が本格的にスタートすることになりました。

これからは事業の企画・立案から、当日の実施・運営、会報の編集・発行、会計の管理など、会員の皆様の理解と幹事の方々のより積極的な関わりが必要となってくるかと思えます。

しかし、その一方では様々な事業を企画し、運営していくという楽しみの部分もこれまで以上に広がっていくものと思えます。従来の事業のあり方を一度見直し、新たな発想による事業が展開されていくことを期待しております。

「庭園と建築の見学会」～神戸編～に参加して

齋藤 一三

平成26年1月26日 肌寒い日、JR元町駅に集合して13時に出発。

最初に県の公館にて酒井先生の説明をお聞きして、次の相樂園につきました。

相樂園は第11代神戸市長の小寺謙吉氏の先代、小寺泰次郎氏の本邸に営まれた庭園で、明治18年頃から築造に着手され、明治末期に完成したものです。

昭和16年に神戸市が譲り受け、中国の古書「易経」の一節にある「和悦相楽」（和して喜び合い楽しむ）からとって「相樂園」と名付けられ、一般公開されるようになりました。

正門から少し歩いて厩舎、旧ハッサム住宅の前で酒井先生の説明をお聞きして、各自庭園内を散策しました。船屋形（重要文化財）は大きなものでした。

出口に向かう雑木林の中に「白松（ハクショウ）」がありました。これは大阪の住吉公園にも3本あります。松葉は普通2本ですが、中国原産の白松は3本あります。幹も樹皮がはがれて白くなりますが、相樂園の白松は樹皮が付いていました。中国では神聖な木とされています。

次に「北野工房のまち（旧神戸市立北野小学校校舎）」を見学した後、坂道を歩いて「風見鶏の館」と「萌黄の館」に行きました。入館の際に酒井先生の解説を拝聴して館内を見学しました。日曜日とあって多くの観光客で賑わっていました。

見学終了後「風見鶏の館」前の公園にて解散しましたが、大変有意義な一日でした。

酒井先生始め、幹事の方々、参加の会員の皆様にお礼申し上げます。有難うございました。



相樂園



風見鶏の館

「御所まち」を歩いて

宮川 恵三

5月25日(日) 私たち友の会員総勢29名(内、幹事6名)で、神話のふるさとを訪ね近鉄御所駅に集まりました。

今回は日本最古の豪族、葛城氏ゆかりの地を選ばれたようだ。4世紀に三輪山の麓で大和朝廷が築かれる以前、葛城地域を根拠として葛城王朝が築かれていたともいわれており、御所まちもその一部になる。

定刻になり、御所まちボランティアガイドの案内で2班に分かれて出発。まずは鴨都波(かもつば)神社を参詣しました。葛城賀茂社とも呼ばれ、延喜式神名帳に「名神大社」二座(御尊体二柱)として記された由緒ある神社との事です。第10代崇神天皇の時、大飢饉を奉祭により納め、賀茂君の位を賜り、宮中八神殿中唯一の国つ神との事。夏、秋の大祭には県指定無形文化財「ススキ提灯献灯行事」があるとの事です。静かなお宮さんですが、最初から大変なお宮さんに参詣して本日の無事を祈り、御所のまちへと向かいました。

御所のまち歩きをして感じた事は

- ① 南北に流れる葛城川によって西御所と東御所に分けられている事。
- ② 東御所は円照寺(天文年間に領主の桑山氏により常德寺として建立、慶長年間に円照寺に改名)の寺内町として繁栄した。今も立派なお寺で屋根の葺き替えに遠くから傾斜の付けた足場を組んだ。
- ③ 西御所は桑山氏が城下町を建設して以来、旧南葛城郡地域の政治経済の中心地として栄えた面影が碁盤目状に今も残され、保存に江戸から現在に至るまで、大切に保存しようとする町の人々の努力が感じ取れる町並みである。
- ④ 江戸時代の検地絵図が、そのまま使えるほど町の形が残されている。「背割り下水」もそのままの姿で、商家も軒を連ねて並んでいてアルミサッシが使われていない。水も良かったのか酒の醸造家が現在もある。
- ⑤ 「高札場」は街道の交差点であったのだろうか、町の中心地であったのだろうか、繁華街であったのか、今は静かに佇んでいる。
- ⑥ 途中、国登録有形文化財の民家(中井邸)に立ち寄れた。文字が浮き上がっている古い高札、銀貨を量る天秤ばかりなど貴重な資料を拝見しつつ、主より色々と御所の歴史を聞くことが出来た。土地の有名人から生で聞いたのは望外の喜びだった。

僅か半日の歴史の探訪だったけれど、実りの多かった企画に感謝している。

今回参加の会員様にアンケートを取らせてもらいました。

◎見学会の満足度

	回答数	割合
期待以上	7	35%
期待通り	13	65%
期待外れ	0	0%
回答計	20	

◎集合時間

	回答数	割合
丁度良い	16	80%
早い方が良い	4	20%
回答計	20	

◎現地ガイド

	回答数	割合
あったほうが良い	20	100%
なくてもいい	0	0%
回答計	20	



円照寺での集合写真

アンケート項目の一部を掲載しました。今回の見学会に対する御意見や、今後の見学先等についても御回答頂きましたので、今後の運営の参考にさせていただきます。ありがとうございました。(友の会幹事一同)

連載

「浪花百景」～安居神社 天王寺区逢阪～

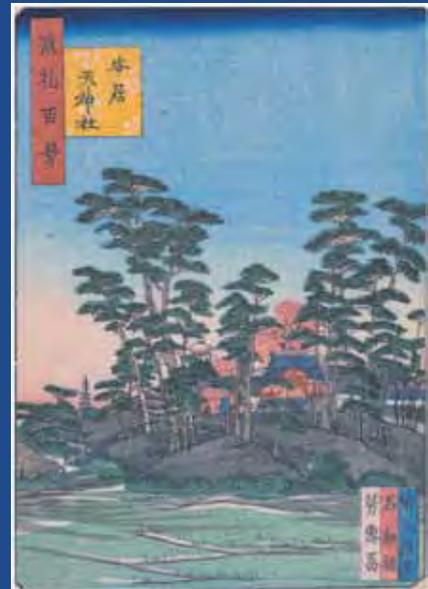
第20回

千倉 康由

創建の年代は不詳であるが、創建時の祭神は少彦名神が祀られていました。菅原道真が大宰府に左遷される途中に、ここに立寄り休息を取ったとされます。村人が道真を慰めるため、「おこし米」を差し上げたのが後の大阪名物「粟おこし」の始まりという伝承も残されている。お礼にといただいた菅原家の紋所「梅鉢」が共同商標に使われているのは、この故事によるものだそうです。

道真の死後、霊を祀るため祭神に菅原道真も祀られるようになったとのこと。

また、境内には真田幸村が大阪夏の陣で戦死した地とも伝えられ、石碑がたてられています。



大阪歴史博物館蔵

特別展「村野藤吾 やわらかな建築とインテリア」

村野藤吾(むらの・とうご 1891-1984)は、大阪を拠点に活躍した日本を代表する建築家です。今年、村野の没後30年にあたります。

村野は、旧そごう大阪店(現存せず)、梅田吸気塔など、大阪の都市景観に欠かすことができない建築を設計しました。村野は、ひとの感性や手仕事を重視して、建築という無機質で堅牢な印象になりがちな存在を、五感にやさしく訴えかける「やわらかな」ものへと変えていきました。

本展では、設計図やスケッチはもちろん、家具や建築部材、村野自身の愛用品などを通して、彼の「やわらかな」作品の魅力と人物像を紹介します。



梅田吸気塔【写真パネル展示】
□設計：村野藤吾
□昭和38年(1963)
□所在地：大阪市北区曽根崎2-16

平成26年

9月3日(水)～10月13日(月・祝)

◎休館日／火曜日(ただし、9月23日(火・祝)は開館、9月24日(水)は休館)

◎開館時間／午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時まで)※ただし、入館は閉館の30分前まで。

◎会場／大阪歴史博物館 6階 特別展示室

◎主催／大阪歴史博物館 ◎特別協力／京都工芸繊維大学美術工芸資料館、村野家、MURANO design

編集後記

今回から全面的に、友の会幹事で編集しております。

ご意見やお気付きの点がありましたら、友の会へ連絡をお願いします。

●大阪歴友 Vol.26号(大阪歴史博物館友の会)平成26年9月17日発行

●編集・発行 大阪歴史博物館友の会 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32

大阪歴史博物館 気付

TEL.070-5663-2662(携帯電話)